

2019年2月8日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

2018年度国際学術情報流通基盤整備事業 事業報告

第5期基本方針のもと、2018年度は次のプロジェクトを実施した。

※ 枠内の数字は、第5期の基本方針の課題番号に合致する。

1. SPARC Japan セミナー 2.①②への対応

アドボカシー活動として、企画WGを組織し、SPARC Japan セミナーを4回実施した。【別紙】

2. 海外動向調査 2.③④への対応

以下の国際会議等に関係者が参加し、情報収集を行った。

- ・ SCOAP³ Executive Committee (5月2-4日, ジュネーブ)
- ・ arXiv Member Advisory Board 会議 (10月2日, イサカ)
- ・ CLOCKSS 事務局との面談 (10月5日, ニューヨーク)

3. arXiv.org コンソーシアム事務局 2.①②への対応

国内会員機関からの2018年会費について、NIIがとりまとめて支払った。また、日本コンソーシアムの代表について、引原隆士京都大学図書館機構長への委嘱期間が9月末に終了となったことから、SPARC Japan 運営委員会委員長の武田教授が代理でMember Advisory Board (MAB, 10月2日) 会議に出席した。

また2018年10月1日付けで、代表を武田教授に交代した。任期は2019年12月末となる。

その他、2019年1月から、運営体制がCornell Computing and Information Scienceへ移行することについて、国内会員機関にお知らせした。

今後は、2019年のコンソーシアム(継続)参加意向調査を行う予定である。

4. SCOAP³ 支援 2. ①②への対応

SCOAP³ フェーズ 2(2017-2019 年)における日本の大学図書館からの拠出金を, NII がとりまとめて支払った。また 8 月に, 「SCOAP³ 参加の検討について(依頼)」を大学等各機関の長及び図書館長宛に送付し, 更なる参加協力を依頼したところ, 数機関の参加を得た。

2019 年の参加意向調査を 2018 年 12 月末に発信し, 現在取りまとめ中である。

また, 高エネルギー物理学分野の研究者コミュニティと SCOAP³ の現況を共有し, 今後の対応を検討すべく, 早稲田大学(国公立大学大学図書館協力委員会), JUSTICE, 東京大学, 京都大学, KEK, 名古屋大学の研究者と野崎委員, 当研究所の教職員が出席して, 1 月 15 日に「SCOAP³ 推進のための検討会議」を開催した。第 2 回目を 2 月 22 日に開催する予定である。【参考資料 5】

5. CLOCKSS 支援 2. ①②への対応

日本の大学図書館からの 2018 年会費を NII がとりまとめて支払った。また, 2019 年会費について CLOCKSS 事務局への照会后, JUSTICE の確認を経て金額が確定したため, 2018 年参加機関に対して 2019 年会費を通知した。

今後は, 参加意向調査を 2018 年度末に実施する予定である。

6. 論文公表実態調査 2.④への対応

2017 年度に引き続き, JUSTICE が主導する日本の論文公表実態調査のフォローアップに協力している。

7. SPARC Japan 年報の発行 2.②④への対応

2013 年度より, 活動記録のために年報を日本語及び英語にて発行している。内容としては, 当期の基本方針, 当年度活動内容(セミナーの記録ほか), 委員会等の開催記録と名簿, 総合年表, SPARC Japan ニュースレター等を再掲している。

2018 年度は, 平成 28(2016)年度 SPARC Japan 年報(英語版)を発行した他, 平成 29(2017)年度 SPARC Japan 年報(日本語版)を発行する予定である。

8. 高エネルギー物理学分野の情報サービスに係る国際連携協定への対応

2.③への対応

2015年10月に、CERNが提供しているデータベース「INSPIRE」の高エネルギー物理学分野の研究論文や研究者情報等の品質向上のため、日本人研究者に関するキュレーションに協力する協定を、CERN、NII及びKEKで締結した。この協定に基づいてこれまで、CERNにおいてキュレーションの作業に従事する大学図書館員等を派遣してきたが、2018年12月末にCERN側の体制に変更があり、研修生を受け入れることができなくなったとの連絡があった。

9. SPARCとのMOU更新について 2.①への対応

SPARC Japanの名称及びその下での活動に係るMOU（覚書）は、SPARCとの取り決めによって2019年2月11日まで有効となっている。本MOUの有効期限後は、「相互の合意に基づいて延長する」ことが可能となっており、国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会の了承も得られていることから、個別条項の確認と現状を踏まえた若干の加筆・修正を行うことでMOUを更新する（SPARCにも、このような進め方について同意を得られている）。【参考資料6】

SPARC Japanセミナー2018 実施状況

資料 2 別紙

2019年2月8日

国立情報学研究所 学術コンテンツ課

年間テーマ：「オープンサイエンスの定着に向けて」

主に欧米に先導されてきたオープンサイエンスを目指した活動は、日本でも理解が深まりつつあることから、この活動を今後どのように定着させていくかについて議論した。

回	開催日時 (場所)	テーマ	企画WG (所属) ◎主査、五十音順	講師 (所属) 登壇順	参加状況											定員	動画利用状況 ※2/1時点		
					パート ナー誌	運営委 員	学協会	大学	研究者	大学図 書館	国立機 関	出版/ 印刷会 社	その他	NII	合計		動画中継 利用件数	アーカイブ動 画利用件数	
1	2018年9月19日(水) 13:30-17:10 (国立情報学研究所 12F 会議室)	「データ活用ポリシーと研究者・ライブラリアンの役割」 データ活用ポリシーの策定と実施に向けた研究者・ライブラリアンの役割を検討した。	石山 夕記 (一橋大学) 林 和弘 (科学技術・学術政策研究所) 林 賢紀◎ (国際農林水産業研究センター) 八塚 茂 (バイオサイエンスデータベースセンター)	【講演者・モデレーター】 赤池 伸一 (科学技術・学術政策研究所 / 内閣府) 林 和弘 (科学技術・学術政策研究所) 白井 知子 (国立環境研究所 地球環境研究センター) 丸川 雄三 (国立民族学博物館) 石山 俊 (国立民族学博物館) 林 賢紀 (国際農林水産業研究センター)	0	3	2	4	1	24	11	3	15	7	70	70	133	177	
2	2018年10月25日(木) 10:10-16:10 (国立情報学研究所 12F 会議室)	オープンアクセス・サミット2018 「オープンサイエンス時代のクオリティコントロールを見通す」 オープンサイエンスの進展によるプレプリントや研究論文、データ出版プラットフォームに関する情報を共有しつつクオリティコントロールの方向性とコンテンツの質の保証について議論した。	鈴木 親彦 (国立情報学研究所 / 人文学オープンデータ 共同利用センター) 中原 由美子 (筑波大学) 中村 美里 (東京大学) 林 和弘◎ (科学技術・学術政策研究所) 八塚 茂 (バイオサイエンスデータベースセンター)	【講演者・モデレーター】 Rebecca Lawrence (F1000) Ben Seymour (脳情報通信融合研究センター) 武田 英明 (国立情報学研究所) 坊農 秀雅 (ライフサイエンス統合データベースセンター) 栗山 正光 (首都大学東京) 林 和弘 (科学技術・学術政策研究所)	0	2	2	6	2	10	6	9	10	6	53	70	90	97	
3	2018年11月9日(金) 13:00-17:25 (国立情報学研究所 12F 会議室)	「オープンアクセスへのロードマップ: The Road to OA2020」 共催: 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) OA2020を踏まえた、日本における最適なOAモデルへの移行について検討した。	石山 夕記◎ (一橋大学) 高久 雅生 (筑波大学) 中村 美里 (東京大学) 林 賢紀 (国際農林水産業研究センター)	【講演者・モデレーター】 Ralf Schimmer (Max Planck Digital Library) 市古 みどり (慶應義塾大学) 大隅 典子 (東北大学) 尾城 孝一 (国立情報学研究所)	0	4	3	6	3	38	7	12	17	12	102	100	254	194	
4	2019年1月29日(火) 13:30-17:00 (国立情報学研究所 19F 会議室)	「人文社会系分野におけるオープンサイエンス～その課題解決に向けて～」 人文社会系分野におけるオープンサイエンスの最新の動向とその課題を共有し、推進の為の解決策について議論した。	鈴木 親彦◎ (国立情報学研究所 / 人文学オープンデータ 共同利用センター) 高久 雅生 (筑波大学) 中原 由美子 (筑波大学) 中村 美里 (東京大学) 林 和弘 (科学技術・学術政策研究所)	【講演者・モデレーター】 前田 幸男 (日本学術振興会 / 東京大学大学院情報学環) 天野 絵里子 (京都大学 学術研究支援室) 設楽 成美 (京都大学 東南アジア地域研究研究所) 鈴木 親彦 (国立情報学研究所 / 人文学オープンデータ共同利用センター) 中原 由美子 (筑波大学 学術情報部)	0	3	0	6	2	21	5	7	11	11	66	60	165	動画未公開	
合計					2018年度参加状況(4回開催)	0	12	7	22	8	93	29	31	53	36	291	300	642	468

0% 4% 2% 8% 3% 32% 10% 11% 18% 12% 291

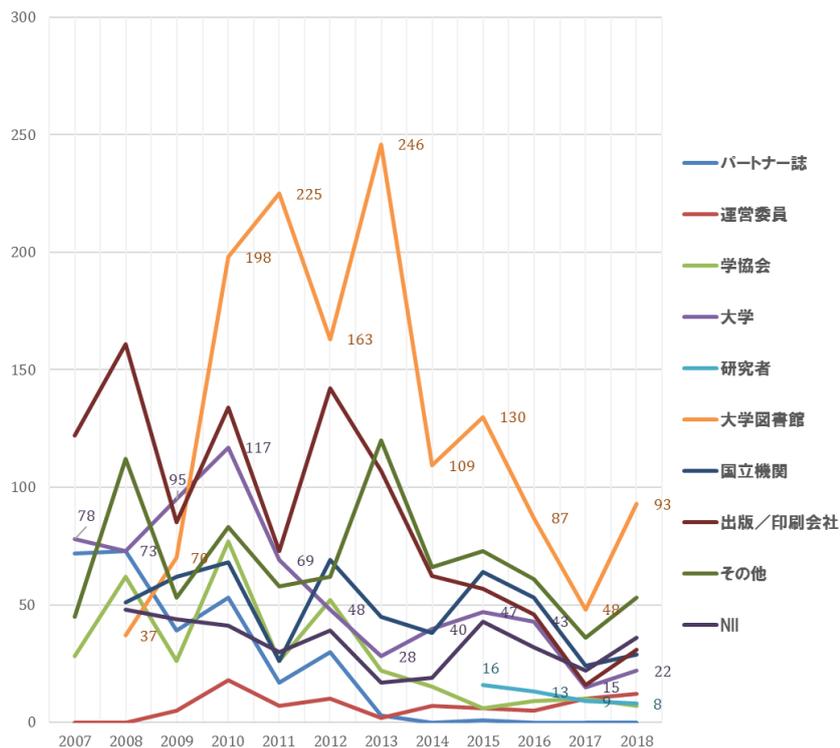
※注
発表資料・ビデオ映像・記録ドキュメント等はウェブサイト(<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/>)で公開している。また来場者の要望が多数あったこともあり、2017年度に続き、2018年度も主にスクール形式を採用し、来場者もPCを使えるようにするとともに、動画中継を行い、同時に自由に多くの人が視聴し参加できるようにした。
参加者の属性は、参加申込時の申告に基づいている。例えば”NII”, ”大学”及び”国立機関”に研究者が含まれる。

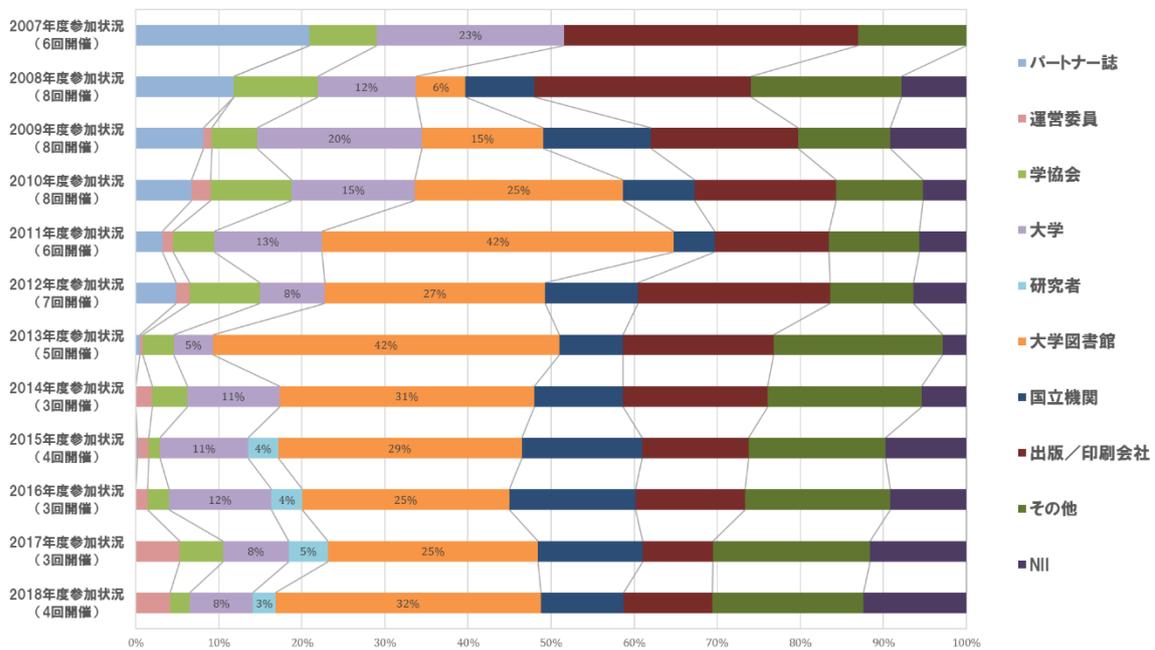
○ 企画WGメンバー

	回次	名前 (五十音順)	所属・役職
研究者	2,4	鈴木 親彦	国立情報学研究所 / データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター(CODH) 特任研究員
	3,4	高久 雅生	筑波大学 図書館情報メディア系 准教授
	1,2,4	林 和弘	科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 上席研究官
	1,2	八塚 茂	バイオサイエンスデータベースセンター 研究員
図書館員	1,3	石山 夕記	一橋大学 学術・図書部学術情報課 雑誌情報係員 (大学図書館コンソーシアム連合運営委員会推薦)
	2,4	中原 由美子	筑波大学 学術情報部 情報企画課 リポジトリ担当 係員 (オープンアクセスリポジトリ推進協会推薦)
	1,3	林 賢紀	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 企画連携部情報広報室情報管理科情報管理係 (これからの学術情報システム構築検討委員会推薦)
	2,3,4	中村 美里	東京大学附属図書館 総務課 専門職員(企画渉外担当) (国立情報学研究所推薦)

○ 参加者人数の経年変化

注)2017年度に定員枠の変更あり。





1 回あたりの平均人数	
2007 年度参加状況 (6 回開催)	58
2008 年度参加状況 (8 回開催)	77
2009 年度参加状況 (8 回開催)	60
2010 年度参加状況 (8 回開催)	99
2011 年度参加状況 (6 回開催)	89
2012 年度参加状況 (7 回開催)	88
2013 年度参加状況 (5 回開催)	118
2014 年度参加状況 (4 回開催)	89
2015 年度参加状況 (4 回開催)	111
2016 年度参加状況 (3 回開催)	116
2017 年度参加状況 (3 回開催)	63
2018 年度参加状況 (4 回開催)	73